

## 富山小学校だより



No. 6

## 母さんの「あおいくま」

この言葉は、私が読んだ本（母さんの「あおいくま」 新潮社）の題名です。この本の著者はテレビによく出てくるタレントのコロッケ（本名：滝川広志）さんです。私がこの本を購入したきっかけは、おもしろいものまねの芸をされるコロッケさんが書かれた本であることと、本の題名に興味深く思えたからです。



【写真は「日本タレント名鑑」より】

この本を読み終えて、私自身、この「あおいくま」という言葉を大切にしないといけないなと強く思いました。そして、自分が小さい時にお母さんから教えてもらった言葉を、今でも大切にしておられるコロッケさんの姿勢に感動しました。

子ども達にも、コロッケさんのことやこの本の内容について伝えたいと思い、6月6日（水）の全校朝会で次のような話をしました。

## 【全校朝会での校長の話】

（略）コロッケさんが小さい頃から、家にこのような（右の張り紙を掲示して）張り紙がしてあったそうです。この言葉の最初の字を続けて読むと、「あおいくま」となります。

「あせるな おこるな いぼるな くさるな まけるな」という言葉は、コロッケさんが、子どもの時に、お母さんから教えてもらい、ずっと胸の中にある言葉だそうです。

ま	く	い	お	あ
け	さ	ぼ	こ	せ
る	る	る	る	る
な	な	な	な	な

これまで、とてもつらいことやいやなことがたくさんありましたが、そんな時にいつも思い出す言葉だったそうです。

これから、「あおいくま」の意味について考えていきたいと思えます。

最初に、「あせるな」についてです。コロッケさんは、「あせったって、いいことはない。今できることを精一杯やろう！」と、毎日、自分に言い聞かせてきたそうです。

「あせるな」というのは、「すぐにうまくいかなくても、あせらないでじっくりやりましょう」という意味です。ただし、コロッケさんはこう考えています。何もしないで待っているだけではだめで、きちんともまねの準備をして、いつでもできるように頑張りながら、待っていることが、「あせるな」の本当の意味だと、コロッケさんは考えています。

「あせるな」というのは、「準備をしながら、じっくりと待つ。」という意味なのだと、勉強になりました。

次に、「おこるな」「いぼるな」です。コロッケさんは、「怒る人」や「威張る人」を見ると、とてもいやな気持ちになって、「こういう人にはならないようにしましょう」と考えるようになったそうです。コロッケさんでも、頭にくることはあるそうですが、その時は、

深呼吸をして気持ちを落ち着けながら、「怒るな、怒るな。何で僕は今、怒りたくなかったのだろうか？」と考えるそうです。すると、怒る気持ちが減ってくるそうです。

次に、「**くさるな**」です。「くさる」というのは、「もうどうでもいいや」とか「もうだめだ」とか、後ろ向きの気持ちになって、元気をなくしてしまうような意味だと思います。

コロッケさんは、くさっている人を見ると、もったいないと思うそうです。「やればできるのに、くさっている間に、やるべきことはたくさんあるのに」と思うそうです。コロッケさんは、とても前向きな人だと思います。

最後に、「**まけるな**」です。コロッケさんは、テレビ番組の「ものまね王座決定戦」で、たくさんのタレントさんと競争をしてこられました。「人に負けるな」とばかり考えていたら、その人が憎くなってしまふことがあり、そんな考え方は寂しい。この「まけるな」という言葉の本当の意味は、人に負けるのではなくて、自分に負けるなということだ。と、コロッケさんは言っています。（略）



みんなも、コロッケさんが大切にしている言葉、「**あおいくま**」という言葉大切にしたいと思っています。



## 算数をかんばんる子ども達

6月6日（水）に、浜田教育事務所・大田市教育委員会の訪問指導として、そして、大田市学校教育研究会算数・数学部会授業研究会として、外部から計11名の先生方をお迎えして、本校の5年生・6年生の算数の授業の研究会がありました。



5年生・6年生教室は、本校の教員も含めて、授業の参観者でいっぱいになりました。複式での授業で、5年生は5年生の学習を、6年生は6年生の学習をします。一つの学年に担任がついて授業をしている時は、もう一つの学年は自分達で話し合いをしたり、自分の力で問題を解いたりします。二つの学年とも難しい問題でしたが、堂々と自分の考えを発表したり、自分の力で問題を考えたりできました。たくさんの方がいて緊張感があったと思いますが、子ども達の集中力はすばらしかったです。

授業をみていただいた先生方からたくさんの賞賛の言葉をいただきました。また、来校された先生が、「本校の子ども達に出会った時、とても気持ちの良い挨拶をしてもらいました。」と、大変喜んでおられました。子ども達の一生懸命に頑張る姿勢、気持ちの良い挨拶と、富山小の子ども達の良さが十分に発揮できたと大変嬉しくなりました。

今回の経験を、5年生・6年生だけでなく、全校の子ども達の大きな自信としてほしいです。

